

平和宣言で引用した被爆体験談を書かれた方のコメント等

1 当時 17 歳の男性（伊藤^{いとう} 宣夫^{のぶお} 88 歳 岩手県遠野市在住）

- ◎ 原爆が投下された当時の広島を歩き、戦争が人殺しであることを実感しました。命の尊さと平和にかなうものはありません。被爆者、そして戦争体験者として、絶対に戦争をしてはいけないと思います。
- ◎ 平和を実現するためには、全ての国や人々が、やみくもに相手の悪いところを指摘するのではなく、相手の納得を得られるような行動をすべきだと思います。
- ◎ そのためには、平和を大切にされた教育が何よりも重要です。若い世代の方には、どうすれば戦争をなくし豊かに生活していけるかを、みんなで話し合いながら考えてほしいと思います。

2 当時 18 歳の女性（寺澤^{てらざわ} 英子^{ひでこ} 89 歳 広島県廿日市市在住）

- ◎ 自身が経験した被爆体験を多くの方に知っていただきたいと思い、体験談を執筆しました。
- ◎ 若い方々には、平和はよそからやってくるものではなく、自分たちでつくるものだという事を伝えたいと思います。そして、政治や社会情勢に関心を持ち、選挙などを通して、自分たちで平和な社会を作ってほしいと考えています。
- ◎ 世界には、広島に投下された原爆よりもはるかに強力な核兵器が存在します。各国の政治指導者には、核兵器を決して使わないという意思を一日も早く表明してほしいと思います。

※被爆体験談は、2 点とも平成 26 年の平和宣言作成の際に御応募いただいたもの

（敬称略、平和宣言の引用順）